報告　多目的遊水地の野鳥観察会

2011年5月22日（日）、流域の鳥に詳しい渡利氏を講師にお迎えし、多目的遊水地で見られる初夏の野鳥を観察し、遊水地の仕組み・働きについても学びました。
遊水地内は、オオヨシキリやヒバリ、セッカの声がとてもにぎやか。およそ1時間半で19種ものたくさんの鳥を観察する事ができました。（参加者　大人17名　子ども12名）

流域センターを出発！観察の前にまず、双眼鏡の使い方を教わります。
「絶対に太陽は見ないように！」

あっ！いました！！コチドリです。
ツバメと同じように春になると日本にやってきます。

なんと！！よく見ると近くにコチドリのひなも発見です！

砂利の荒地に潜んでいる鳥を見つけました。みなさんじーっと目を凝らして探します。

池に出ると、水辺ではカルガモが休憩中です。ひなを連れている姿はとってもかわいいですね。

風はとても強かったのですが天気はよく、ミシシッピアカミミガメが甲羅干しをしていました。

観察のまとめ

1時間半の観察を終えてセンターに戻り、見ることができた鳥をおさらいする『鳥あわせ』を行いました。
子どもたちからもたくさん鳥の名前があがり、合計19種の鳥を観察することが出来ました。
よーく見てみると、意外と身近にもたくさんの鳥たちが暮らしているんですね。多目的遊水地の自然、働きをしっかり学習できました。

流域センターに戻る途中、「ギョギョシ、ギョギョシ…」と大きな声が聞こえてきました。
正体は、、**オオヨシキリです。**
川辺などのアシ原の高いところでオスが大きい声でさえずります。